


ネパール			首都	カトマンズ
 <p>三角を2つ重ねた珍しい国旗で、凶柄の月と太陽はヒンズー教のシンボルを表している。端の青色はネパール人の気持ちを背景の赤色は愛国心を表している。</p> <p>独立：1769/11/13          国連加盟：1955/12/14          政体：連邦共和制</p>	国 の 概 要	国土	面積 14万7,000 km <sup>2</sup> (北海道の1.8倍) ヒマラヤ山脈南麓に位置し、国土の83%は山岳か丘陵地で、国土は標高5,000m以上の北部山岳地帯、600~5,000mのカトマンズ盆地を中心とする中部、300m以下でインドのヒンドスタン平原に続く南部に大別される。北部にはエベレスト、カンチェンジュンガをはじめとする8,000m級を含めて6,000m以上の高峰が240もある。	
		人口	2,710万人	
		言語	ネパール語(公用語) その他	
		通貨	ネパール・ルピー	
		気候	気温は標高によって大きく変化し、山岳部は高山気候、平地は温帯気候で、南部の低地には高温多雨気候も見られる。南西モンスーンの影響が強く、5~9月は雨が多い。11月~1月はほとんど雨が降らず乾燥している。	
		民族	ネパール人(リンブー族、ライ族、タマン族、ネワール族、グルン族など)	
		宗教	ヒンズー教90%、仏教5%、イスラム教3%	
教 育 制 度 の 概 要	学校体系	・小学校5年間(6歳~10歳)、中学校3年間(11歳~13歳)、高校2年間(14~15歳)、10+2(テンプラス・ツー)と呼ばれる後期中等学校、大学となっている。		
	義務教育	・いわゆる義務教育制度はなく「教育を受ける権利が保障されている」というもので、現在、小学校教育の無料化、教科書の5年生までの無料配付化が進み、都市部では中学校まではほとんど、高校もかなりの者が進学している。しかし、地方や山間部では、都市部ほどの就学率は得られていない。 ・その年の3月までに満6歳になる者は、その年の3月に小学校の1年生に入学する。		
	日本と比較した教育課程上の特徴	・学校年度は日本と同様に、4月~翌年の3月であるが、学期制はない。 ・小学校1年から英語が始まる。		
	義務教育後の教育	・高校(10年生)を修了した生徒を対象に「School Leaving certificate」と呼ばれる試験が全国一斉に行われるが、この		

		成績は大学への入学、公務員の採用試験の際に必要とされる。 ・大学はキャンパスと呼ばれ、ディプロマ・コース（学士）3年間とディグリー・コース（修士）2年間となっている。
	就学前教育	・保育園・幼稚園の教育は都市部では盛んになってきているが中流以上の家庭であり、地方ではほとんど行われていない。 ・幼稚園では、遊びながら、歌いながら英語を楽しく教えている。
	その他	・国公立より私立の学校の方が評価されている。公立学校はネパール語を教授言語として、ネパール政府の作った国定教科書に基づいて授業をするが、私立校は、英語を教授言語とし、インドや欧米の教科書をもとにした英語教科書で授業をする。そのため、富裕層の子弟は私立校や有名公立学校に行き、貧困層の子弟は設備のよくない公立校に行くという教育における階層分離が大きくなってきている。 ・就学率には地域差、男女間の格差が見られる。 ・公立校の教員の副業は認められていて、補修のアルバイトや出稼ぎに行くという例もある。郊外や地方だと兼業農家の先生が多く、農繁期には教師も生徒も休んでしまうことがある。 ・カトマンズには国際学校がある。
学 校 生 活	休業期間	・夏休みは6月頃に15日間で、冬休みは12月に1カ月間、国民の祭りが10月末に15日間ある。
	学級担任制、 教科担任制等	・小学校でも専科制だが、一人の先生がいくつも担当している場合が多い。
	飛び級、落第の有無	・小学校1年生から、学年の終わりに次の学年に進むかどうかの判定をする。
	教育内容の差異	・先生の講義を聞いて、ノートに写す。資料はコストがかかるので、配布しない。 ・私立の学校では、2年生で3桁の足し算引き算を学習している学校もある。4年生の社会科では、英文の教科書を使い、先生は英語と民族語（ネパール語）使い分けでの説明、7年生では、民族音楽の太鼓演奏の学習などをする。
	給食	・弁当持参が原則で、昼食をとり家に帰る児童が多くいる。
	チャイムや号令	・45分ごとにチャイムがなる。
	教室における行動様式 等の違い	・農村部では、1学年1クラスの学校が原則なので、教室に入りきれない場合は、校庭に座って勉強する学校もある。

	校則	・公立小学校の制服は、上着がうすい青のワイシャツ、ズボンとスカートは紺で、青いネクタイを着用する。
	保護者の授業参観、保護者会、PTA	・公立の場合、学校を管理するために、保護者を含む管理委員会を設立している。 ・保護者会やPTAはない。
	子どもの一日	・朝8時～9時の間に、朝食を食べて、10時～16時まで学校の授業がある。帰ってきて2時間くらい友達と遊んで、夕飯を食べて宿題をしてから寝る。中には、遊ばないで子守りをする子もいる。
	その他	・子どもたちは、水汲み、牛の世話、食事の準備の手伝いなど、家の用事が多くあり、毎日学校に来られない子どもが多い。そのため、勉強を途中で止めてしまう子どもがいる。また、経済的な理由でまったく学校に通えない子どもたちも見られる。
生活習慣等	言葉の指導面の留意事項	・公共の場や教育機関では通常公用語であるネパール語が使われるが、ネパール語を母語としない人口は半分以上いる。その言語の数は30種で、これがさらに方言に分かれている。観光ビジネスに携わる人の中には日本語を話せる人の数も徐々にではあるが、増えてきている。
	宗教上の忌避事項	・牛は神様だから、牛肉を食べてはいけない。
	食生活	・朝と夜はご飯中心にダル（豆のスープ）、野菜カレー（タルカリ）、辛い漬物（アツァール）などを食べる。昼はご飯以外の軽食である。 ・代表的な料理として「アルコ・ロティ」がある。じゃがいものすりおろしをたっぷり混ぜた生地をパンケーキのように薄く焼き、朝・昼・晩いつでも食べる。
	衣服住居の違い	・民族や地形や気候によって違いがある。普通、男性はドウラ・スルワル、女性はサリー・ブラウズを着用する。
	交通規則の違い	・鉄道はなく、バスを利用する。
	その他	・様々な民族が異なる言語・宗教・生活習慣・文化を持ちながら、互いに尊重・融和しあい暮らしている。民族間・宗教観の緊張がほとんどない。 ・人気の遊びとしては、ツウンギやカバルディがある。ツウンギは、一本のひもを何十個もの輪ゴムの真ん中に通して、そのひもの両端を結びと花の形をしたものになり、これをツウンギといい足でサッカーボールのようにリフティング

	<p>して遊ぶ。</p> <p>カバルディは中央にラインを引き、コートをつくる。そして、A・B、2つのグループに分かれる。A・Bの代表がくつを投げて表・裏で鬼を決める。鬼が大きく息を吸い込み「カバルディ」と言いながら、相手のコートで、敵にタッチする。敵は鬼が自分のコートに帰れないように邪魔をする。鬼が、自分のコートに帰れないまま息が切れたときは、鬼が退場し、帰れたときはタッチされた人が退場する。</p>
--	---

<参考資料>

- ・世界の国々・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・外務省
- ・諸外国の学校情報・・・・・・・・・・・・・・・・外務省
- ・世界の国々・・・・・・・・・・・・・・・・アトラス
- ・ジュニア世界の国旗図鑑・・・・・・・・平凡社
- ・世界の国・地域の紹介・・・・・・・・SIRA キッズ
- ・教員はどこでも・・・・・・・・青年海外協力隊千葉OB会 阿由葉 綾子
- ・世界のこどもたち（ネパール編）・・在福岡ネパール王国名誉領事館 シャイマ サガル ラージュ
- ・ネパールの教育の現状・・・・・・・・神戸大学大学院、日本ネパール協会理事 畠 博之
- ・ネパールの生活・教育と未来・・・・・・・・和光大学総合文化研究所
- ・世界の郷土料理・・・・・・・・KDDI
- ・在日ネパール人より